

SDGs達成度ランキング

国際的な研究組織の「持続可能な開発ソリューション・ネットワーク」(SDSN)は、世界各国のSDGsの達成度合いを評価した「持続可能な開発レポート」2022年版を発表しました。このレポートは各国の達成状況を点数で評価すると同時に国別に順位付けしていることで注目されています。日本のSDGs達成度は163ヶ国中19位となり、前年の18位から1ランク下がっています。

順位(カッコ内前年)	国名	点数
1(1)	フィンランド	86.5
2(3)	デンマーク	85.6
3(2)	スウェーデン	85.2
⋮	⋮	⋮
19(18)	日本	79.6

北欧勢が上位を独占し、上位20ヶ国のうち日本以外の19ヶ国は欧州の国々が占めており、日本はアジアではトップ、米国は41位、中国は56位でした。

報告書では目標ごとに「達成済み」「課題が残る」「重要な課題がある」「深刻な課題がある」の4段階で評価しています。日本の評価は、教育、技術革新、平和と公正の実現などにおいては、高く評価されている一方で、ジェンダーギャップが解消されないことや、海や森林の保護もまだ十分でないとの評価です。

【達成済み】とされた目標



【深刻な課題がある】とされた目標



2015年に採択され、2030年までの達成を目指すSDGsは、来年(2023年)折り返し地点を迎えます。課題が残るなか、地道に取り組みを進めていくことが求められています。

花火は環境問題の原因になる？

夏の風物詩の一つとして親しまれている花火ですが、近年「環境に悪影響ではないのか？」という観点から語られることもあるようです。

花火の材料には、ストロンチウム、バリウム、鉛などの有害金属が含まれており、煙にはこれらの材料が混ざり合ったものやPM2.5が含まれています。そのため直接大量に吸ってしまうと、ぜんそくや気管支炎といった呼吸器系疾患を引き起こす可能性があります。また、空気中に飛散した煙が地面や水面に降り注げば、土壌や水質汚染を招く原因にもなり得ます。とはいえ、打ち上げ花火による大気汚染はごくわずかなもので、そこまで環境に深刻な影響を与えることはないと考えられています。

また環境に配慮した花火もすでに開発されていて、ある花火製造会社の「エコ花火」には、玉皮(花火の外郭部)に生分解性プラスチックが採用されています。これによって、燃え尽きずに地上に降っても、生態系や環境に影響を与えずに済むとのこと。

今年も「隅田川花火大会」は中止となってしまいましたが、機会があったら“綺麗なだけじゃない”花火を楽しみたいものです。



JS環境委員会短信

新型コロナウイルス感染者が、また増加しています。引き続き、基本的な感染対策に努めましょう。

本社 環境委員会メンバー

委員長：下鳥治

委員：小井土昌弘 河野純一 庄司亜佐子

曲師里奈 森智史



ブルーパレット認証
ISO 9001:2015
株式会社ジャパン・スリープ
本社：札幌市